

## 「温州ミカンの着果対策」

(果樹試験場 池田繁成)

本年の温州ミカンの着花については、前年の生理落果の多少により園地間のばらつきが大きいと予想されます。全体的には裏年傾向の園地が多くなると思われませんが、前年に生理落果が多く着果量が極端に少なくなった園地では、二年連続で表年傾向になることも考えられますので、園地ごとの着花状況に応じた着果対策の実施をお願いします。

### 1. 水挿し調査における着花状況

果樹試験場内の生態調査樹で行っている水挿し調査結果を第1表に示しています。裏年傾向であった平成二十年、二十二年と比較して総花数は多い傾向にありますが、直花数は少なく有葉花が多い状況です。これらの結果や昨年着花果の状況を考慮すると、極端な裏年傾向とははたらくても、着花数はあまり多くないと考えます。

第1表 果樹試験場内の生態調査樹における水挿し調査結果

(早生温州 採取日：2/10)

年次	新梢 (本/枝)	直花 (個/枝)	有葉花 (個/枝)	総花 (個/枝)
H20	2.3	0.9	0.9	1.8
H21	0.9	3.5	3.3	6.8
H22	2.9	2.1	0.3	2.4
H23	2.5	1.5	0.3	1.8
H24	1.1	0.8	2.3	3.1

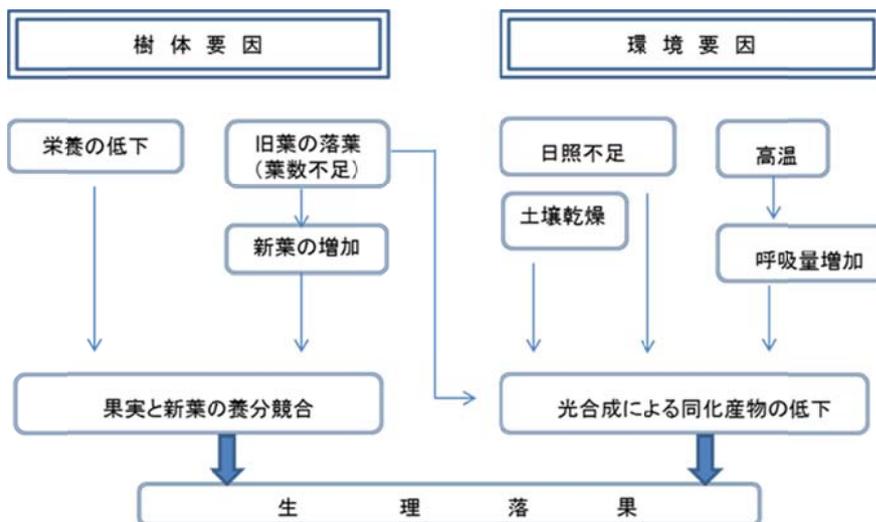
### 2. 裏年傾向の園地での結実促進対策

着花が少なく新梢の発生が多い園地では、生理落果を抑制し着果量を確保することが最も重要なポイントです。

#### ① 生理落果の抑制

生理落果の多少に影響する要因を第1図に示しています。樹体要因では、栄養の低下や冬季の落葉により結実に必要な時期の養分の供給量が少なくなるため、花器と新梢の養分競合の原因となり落果を助長します。また環境要因としては、日照不足や土壌の乾燥は光合成を低下させ、同化産物不足となるため落果を助長します。

本年の着花量を増やすことはできませんので、高品質果生産を行うために、できるだけ生理落果を抑制し結実量を確保するような対策を行ってください。

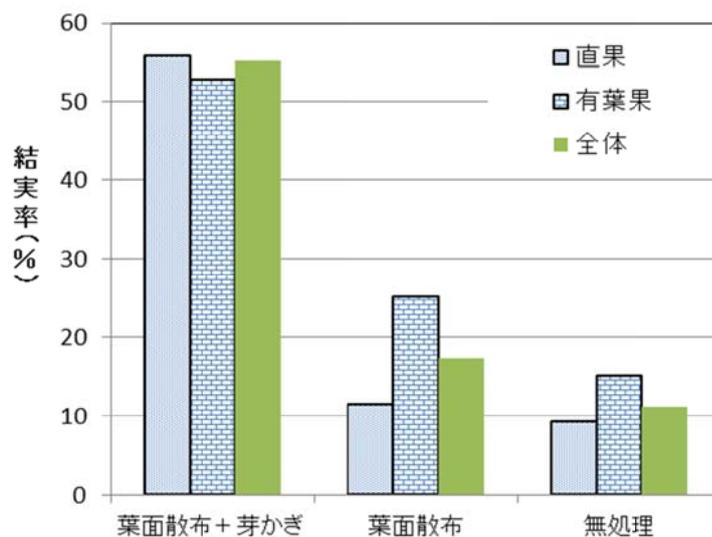


第1図 生理落果に影響する樹体および環境要因

## ② 新梢管理

果実周辺に発生した新梢を除去することで、果実に分配される養分量が増加して生理落果が抑制されます(第2図)。労力がかかる方法ですが、着果させたい部位に限定して実施するなど効率的に作業を行ってください。結実率を高めるためには最も有効な方法です。

またせん定を軽めに行っている園地では、着果部位に被さるように発生した新梢も多いと思われます。このような部位は枝ごとせん除することで作業の効率化が図られます。くわえて着果部位への日照量が増加するため、一層の落果防止効果が期待できます。

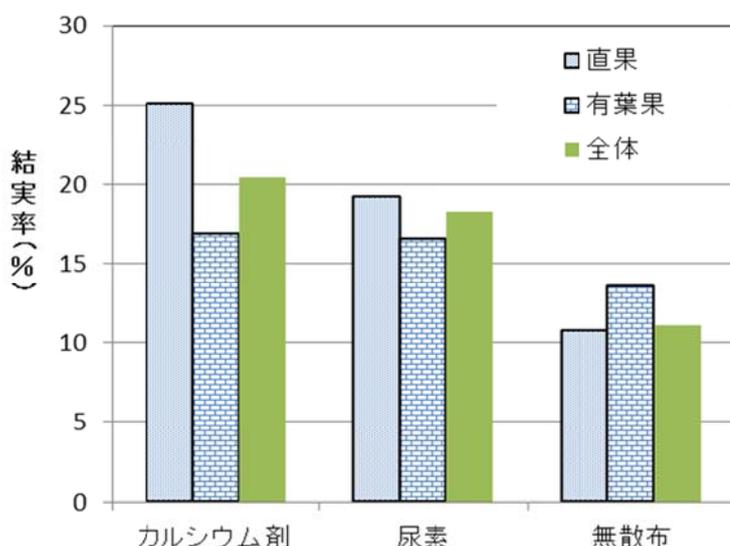


第2図 芽かぎおよび葉面散布(窒素資材)の結実促進効果

### ③ 葉面散布

速効的に樹体栄養を改善する手法としては窒素資材やカルシウム剤の葉面散布も有効です。開花期前から1次生理落果が始まる前までに3回程度実施します。これにより花器の充実促進や樹体栄養の改善による生理落果の抑制が期待できます（第3図）。

散布にあたっては窒素資材としては尿素を三〇〇～五〇〇倍で使用します。カルシウム剤を散布する場合は、水溶性カルシウム剤を用います。これらの葉面散布の効果は、前述した新梢管理と併用することで一層効果が高まりますので、着花の状況に応じて実施をお願いします。また着花量は多くても花が弱く落果しやすい状態の園地においても同様の対応をお願いします。



第3図 窒素およびカルシウム剤の葉面散布の結実促進効果

### ④ 土壤乾燥防止

生理落果期に降雨が少なく土壤が乾燥している場合、スプリンクラーやマルチ栽培用のかん水施設が利用可能な園地では積極的にかん水を実施してください。この際に敷きわら等を行っておくとかん水効果が高まります。かん水施設が利用できない場合でも、樹勢弱木に対しては可能な限りかん水を実施してください。

#### 3. 表年傾向園での着果対策

本年が2年続けて表年となっている園地では、樹勢維持と隔年結果抑制に新梢をできるだけ多く確保することが特に重要なポイントとなります。このことに有効な対策として、摘蕾と局部全摘果について述べます。

##### ① 摘蕾

摘蕾には二つのやり方がありますが、高糖系温州でよく行われているのが、有葉花を摘蕾する方法です。比較的花が少ない部位の有葉花の花を落とし、残った果梗枝を充実させて来年の結果母枝に利用します。

もう一つは直花を摘蕾する方法で、直径1 cm程度の側枝単位で行い、着花している花を全て除去します。実施時期は、摘蕾した部位に再度着花しないように開花1週間前を目安に行います。

## ② 局部全摘果による群状結実

一樹の中に側枝単位で全摘果する部位を設定することにより、新梢を発生させて翌年の結果母枝とする方法です。着果させる部位では、通常の全面結実させる場合より多く着果させることで品質も向上し易くなります。

局部全摘果は早ければ早いほど効果的です。また、摘果剤を活用することで効率的に作業を行うことができます。全摘果は比較的新梢や有葉花の多く発生した部位で行い、樹全体の5割を目安に設定します。一方で結実させる部位については通常より一・五～二倍程度着果させますが、摘果時期が遅れると果実肥大が不十分となりますので、粗摘果は時期を逃さず行って下さい(第4図)。また全摘果により発生した新梢の防除は確実に行ってください。



第4図 局部全摘果の実施例

## 4. おわりに

本年の着果対策について述べましたが、冬季の記録的な低温により、落葉や枝枯れ等の寒害をうけた園地も多いと思われます。高品質果実を生産するためには、マルチ等の品質向上対策に耐え得る樹勢を維持することが必要です。今後とも樹勢の回復を念頭に置いた管理を実践し安定生産につなげてください。